

## ILSI Japan 活動報告 &lt; 10 &gt;

## 【部会・分科会活動報告】 2008年3,4月度

食 品 安 全 研 究 会	食品安全調査研究部会	活動なし
	食品アレルギー研究部会	今期の課題実施中 シンポグループ：アレルギー表示免除に関する EFSA Report 調査、 翻訳グループ：Article on Hazard Characterization in Food Allergen Risk Assessment: ( Food and Chemical Toxicology 2007; 45: 691-701)
	食品微生物研究部会	国立医薬品食品衛生研究所より申請中の厚生労働科学研究(課題名称「清涼飲料水中の汚染原因物質に関する研究」)が正式に承認されたのを受け、ILSI Japan としての参画内容について研究班長と協議(4/23)。 <次回研究部会全体会議; 5/22, 13:00~15:00>
	食品リスク研究部会	08年第2回運営会議開催(4/14, 13:30-17:00) ILSI Japan事務局会議室 議題1: 活動計画 国立衛研・畝山先生勉強会準備(6/9, 食糧会館で開催予定) 「食品の安全性評価のポイント」掘り下げのための勉強会 主題および指導者について意見募集 議題2: 健康食品の安全性確保に関する日健栄協検討会と厚労省検討会の状況把握 <次回運営会議: 6/9, 13:00-14:00>
	バイオテクノロジー研究部会	食品安全委員会からの要請に答えて、微生物分科会がまとめた乳酸菌を中心とした組換え体の研究開発に関する資料を提供
	香料研究部会	活動なし
	食品安全研究会全体	執行委員会出席 3/18 食品安全セミナー講演 4/17
栄 養 健 康 研 究 会	栄養研究部会	第5回「栄養とエイジング」国際会議終了後の作業として、プロシーディングス作成に向けて作業中、7月発行予定の「イルシー」誌 No. 94 に原稿を掲載すべく実施中。
	肥満タスクフォース	「日本人の肥満」の日本語版を、今春を目処に出版、監修の先生方に監修を依頼。また、英語版作成に向けて、日本語版の短縮版作成を実施中。夏頃を目処に出版予定。英語版のブルーリードを依頼中。
	炭水化物研究部会	GR プロジェクトと、二つの分科会(果糖分科会、ダイエット分科会)を中心に、活動を進める。炭水化物の摂取と健康(肥満、生活習慣病)との関係を、ILSI Japan として明確にすることを目標としている。
	GR プロジェクト	3月: GR プロジェクト3カ年計画の最終年度を3月に終了した。 3月18日に最後の定例連絡会を開き、報告書の内容につき合意を得る。また、今後の課題についての検討を行う。 4月: 第3年度の報告書を連絡会の合意の通りまとめ、発送した。
	果糖分科会	3~4月は特に活動なし。5月13日に分科会を行う予定。
	ダイエット分科会	3月18日に分科会を実施した。GIあるいは食後血糖反応と食欲、満腹感の関係に関する論文2報の内容を検討した。これまでの文献調査結果から、高GI食で“食欲が高い”あるいは“満腹感が持続しない”という場合、食後血糖反応が収束する時の血糖値が0時間値よりも低くなるのではないかと、という仮説を立て、その仮説が正しいかどうかを文献調査から検証し、総説としてまとめ投稿していく予定。
	茶類研究部会	特になし。5月15日に幹部会合を開き、今後の部会の方向について相談する予定である。

	日本の食生活と肥満研究部会	本部会の研究発表会開催のための第一回組織委員会を開催し、発表会の開催素案を作成。4月17日の全体会で、共有化した。開催日は、ILSI Japanの年次総会の日を第一候補(2009年2月中旬予定)、発表イメージは、関連の先生(40分)、分科会代表(25分)で構成。開会の辞と総括を小林先生、閉会の辞を木村先生にお願いする方向で調整。
	発酵製品の多様性分科会	食品の量分科会と統合して活動継続。食事の水分に焦点を当てた展開を検討。
	脂質の種類分科会	調査を継続。
	食事の量分科会	甘い飲料を中心としたソフトドリンクの摂取量と肥満に相関が見られる報告が散見。同時に、日本で炭酸飲料が普及しない理由を食文化に求められないか検討。 インターマップスタディーについては、マクロ栄養素やエネルギーの時間帯別摂取を解析中。
	食品機能性研究会	特記なし
C H P	CHP 全体	
	Project PAN (Physical Activity and Nutrition)	テイクテン (TAKE10!) 3/10, 11, 12, 13, 21, 27 すみだテイクテン フォローアップ教室 (墨田区) 3/12, 13 ふそうテイクテン (講師: 木村美佳、愛知・扶桑町) 3/29 講演会「いつまでも元気を目指して～高齢期における介護 予防のための運動・栄養プログラム TAKE10!」(講師: 木村美佳、東京・大田区) 3月初 テイクテン料理冊子「TAKE10!かんたんごはん2」発行 4月末 平成19年度墨田区事業報告 リズムテン (LiSM10!) 4/30 プレスリリース「特定保健指導プログラム『LiSM10!!』の 株式会社ニチレイフーズによる事業化について」
	Project SWAN (Safe Water and Nutrition)	3/26 絵画コンテスト (クワンチュン、ベトナム) 3月 ニュースレターの発行 (No.4: タンヒエップ、No.1: クワンチュン) 4/8 食品安全に関するワークショップ (タンヒエップ、ベトナム) 4/11 水処理施設に関するトレーニング (ダイモ、ベトナム) 4/16 プロジェクトの持続性に関する FGD (タンヒエップ、ベトナム) 4/29 ポエムコンテスト (クワンチュン、ベトナム)
	Project IDEA (Iron Deficiency Elimination Action)	4/8 鉄強化米 (ILSI Japan CHP、FNRI、太陽化学共同研究)の市場導入 (バタアン州オリオン行政区、フィリピン)
	国際協力委員会	特記なし
	情報委員会	委員会開催2回(3,4月)。日常業務としてのホームページ更新、What's ILSI 英文版作成作業<最終英文チェック>。

	ホームページ項目追加検討<部会活動の書き込みファイル：会員あるいは当該部会員限定>
編集部会	「イルシー」誌 93号編集作業、「イルシー」誌 94号 第5回「栄養とエイジング」国際会議プロシーディング号 編集作業。

## 【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

## 【事務局からのお知らせ】

運営委員会	特になし
執行委員会	<p>3月18日(火)に平成20年度第2回執行委員会が開催された。</p> <p>審議事項</p> <p>議案1. 執行委員長の選出 前委員長の任期切れに伴い、事務局より自薦・他薦を含めた委員長の立候補を求めたが特に無く、候補として桑田 有副理事長を推薦したい旨表明した結果、満場一致でこれを承認した。</p> <p>議案2. 「栄養学レビュー」 「栄養学レビュー」日本語版発行に関するこれまでの経緯の説明があり、従来の契約出版社である建帛社より、契約延長にあたっては、¥2.4百万ぐらいの負担の要望があったので、他の数社の出版社とも交渉したが、最終的には女子栄養大出版社とコンタクトすることになり、同出版社は販売と製版だけということであれば検討してみるとの返事をもらい、詳細は同社と煮詰めることになった。Blackwell社との契約は4月初旬までに結論を出す必要があるので討議して欲しいとの要望があった。 それに対して下記のような意見が出た。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現在は大学等に100冊、一般に280ぐらい販売し、ILSIが130冊買い上げ、合計510冊で800冊売ればPay出来る状況なので、290冊販売出来れば赤字なしの出版が出来る。</li> <li>2) 年間4巻発行している「イルシー」誌で1巻か2巻を発行するOptionもある。</li> <li>3) 英文版の3ヵ月分を一つにして4回ベースの契約であるが、それを4ヵ月、5ヵ月分にする交渉もあるのではないか？</li> <li>4) どうしても日本語に訳さなければいけないのか？ 日本のNutritionをやっている先生方は英語では読まない先生が多い。</li> <li>5) 税別¥2,100の単価は高いが、利益者負担の観点から仕方がない。 年3回にして、ILSI Japanの栄養部会のスタッフを中心に翻訳を仲間内でやる等 Cost Reduction を図ることになった。</li> </ol> <p>議案3. 「コミュニケーション推進会議」(仮称)設置 従来の3社よりの特別会費を廃止して、現在ILSI Japanは主に会員へ日本語を中心とした情報を発信しているが、ILSI本部・支部等に英語で海外へも積極的に情報を発信するために、広報の専門家、翻訳</p>

家の人材確保をする必要があるが、そのため会員に基金を拠出してもらい、賛同頂いた会員にはコミュニケーション推進会議の企画・運営に参加してもらう機関を設置する件の説明があった。

それに対して下記のような意見が出た。

- 1) 従来の特別会費を出して頂いていた3社は賛同の意向である。
- 2) 海外に拠点をもっている法人には積極的にこの会議への参加を呼びかけたい。
- 3) 東南アジアへの日本発の情報発信が必要になってきているので、積極的に発信する必要がある。
- 4) ILSI Japan は従来の情報の受信から発信に積極的にならなければならない。
- 5) Trial が必要で、やりながら拡大していければいい。
- 6) 日本特有なもの、例えば冠講座のようなものは海外でも内容を知りたがっている。
- 7) 現在の情報委員会とは今後どうするか調整・整理が必要である。
- 8) 実行のための委員会を作って提案書をつくり、呼びかける対象を絞り込むのか全体に広げるのかも含めて議論する必要がある。
- 9) 政府情報も発信する必要がある。

以上の議論の結果、立ち上げのための委員会を作り積極的に推進することになった。

#### 議案4 . 「翻訳担当者・広報担当者の雇用」

ILSI Japan はInternational の組織でありながら英語での発信が不足していて、英語で発信するにあたっては個人個人の力量に頼っているので、バイリンガルな人材と情報発信のための専門家を確保したいとの要望があった。

それに対して下記の意見があった。

- 1) 候補者として、バイリンガルのサイエンスの専門家がいるので、お願いすることが可能である。
- 2) 原稿を英語で作り、直してもらうか、最初から日本語で翻訳してもらうのかを本人と相談すべきである。
- 3) 原資は「コミュニケーション推進会議」の基金がなり得る。
- 4) 現在情報管理は一人でやっているが、会員のOBの方がお手伝い頂けるとのことである。
- 5) バックグラウンドが広報なりCSRの専門家が望ましいので、会員のOBの方でその分野でお手伝い頂ける方を募集したい。
- 6) マスコミの経験者がいいが業界紙の記者は適切でない。

「コミュニケーション推進会議」と情報委員会で考えている人材確保の内容のギャップがあるので事務局で整理すると同時に、「コミュニケーション推進会議」を軌道に乗せるための委員会を作り骨格を作ることになった。

#### 議案5 . 「第2期東京大学寄付講座」

第2期寄付講座参加申込状況について下記の報告があった。

- 1) 第2期寄付講座は2月の末に申込を終了し、正式には11社の申込があった。
- 2) これ以外に東大の阿部先生には6社の継続の意思表示があったがさらに手分けして10社に声をかけることになった。

- 3) 4月下旬にほぼ固め、総額では¥40百万を目標に募集をしたい。  
 4) 寄付講座の担当がいなく、次のステージを作るための戦略を練るための専任者が必要になり、情報関係の仕事と時間的な調整が必要であるが、末木事務局次長に寄付講座だけでなく機能性食品の Strategy 作りを依頼することになった。

なお、以前北里大の医学部より医農を中心とした観点から ILSI Japan と接点を持ちたいとの呼びかけがあったが、今年も継続して論議したいとの要望があった。

#### 議案 6 . 総務・経理担当理事について

事務局より会計管理上、経理担当理事が必要なので、従来通り、戸上理事に引続きお願いしたいとの要望があり、会計処理規程通り日常のモニタリングは事務局長がすることにして、承認された。

#### その他

ILSI 本部より Dr. John Doull を日本に派遣して各社のトップにお会いして Fund Raising を目的とした Research Foundation について説明する機会をもち、さらに ILSI Japan の食品安全委員会を訪問し ILSI のことを説明したいとの要望があったとの報告があったが、ILSI Japan としては、その趣旨と、どれくらいの金額が必要なのか、寄付者に対する Benefit は何なのかを事前に説明をしてもらうことが必要であるとの報告を ILSI 本部にすることになった。

次回の執行委員会は4月18日(金)6:00から開催することになった。

以上

4月18日(金)に平成20年度第3回執行委員会が開催された。

#### 審議事項

##### 議案 1 . 「栄養学レビュー」

冒頭に出版の継続に当たっては女子栄養大学の協力を頂けることになったことが報告され、引き続きコスト、役割分担等、Blackwell 社と女子栄養大学出版部との出版契約、女子栄養大学出版部と ILSI Japan との販売契約等諸条件についての報告があった。

それに対して下記のような質疑応答があった。

- 1) 建帛社に依頼していたときと出版コストが余り変わらないのであれば同じ赤字を繰り返すことにならないか？

建帛社との契約の大きな違いは、

イ．建帛社は 300 部～400 部の買い増しを求めている、そのコストは¥3.2 百万～¥4.0 百万くらいになる。(女子栄養大との話し合いでは ILSI Japan の負担は¥2.4 百万くらいになる。)

ロ．出版コストに関する、一番大きな要素は販売部数であるが、建帛社は販売努力を ILSI Japan に求めているが、販売努力は女子栄養大学がする。

ハ．女子栄養大学は「健康と表示」等の出版をしており、建帛社より売上の増加が期待できる。

その他に翻訳作業を外部にしていたものを ILSI の会員企業の人にやってもらい翻訳料を半分にしたりして Cost Saving を計る。

- 2) 従来は赤字になっていたことが女子栄養大学に伝わっているの

か？

同大学では香川先生の出版を続けるべきだとの意向があったし、それでも赤字は出したくはないとの意識のもと販売努力が必要であるとの認識をもっている。

その上で、編集作業に女子栄養大を入れるかどうかの判断は難しいが、大学側がコストを負担する以上は入れざるを得ないとの結論が出た。

次のステップとして、ILSI Japan と女子栄養大学の間で話を詰め、一方では 5 月のできるだけ早い時点で編集委員会を開催して、Blackwell 社と女子栄養大学との出版契約、女子栄養大学と ILSI Japan との販売契約を進めることにして、この件は承認された。

#### 議案 2 . 「第 2 期東京大学寄付講座」

20 社、¥40 百万を想定した、東大阿部先生より大学側に出された東京大学大学院農学生命科学研究科「機能性食品ゲノミクス (ILSI Japan)」寄付講座の概要と資料第 2 期東京大学寄付講座参加申込会員リストに基づき 4 月 7 日現在の申込状況が報告され、10 月に最終手続きをする予定ではあるが、その前に 5 月下旬か 6 月の初旬に第 1 回のキックオフミーティングか説明会のようなものを開催し、メディアにも働きかけたいとの報告があった。

#### 議案 3 . 「コミュニケーション推進会議」(仮称)設置

本日は二人の関係者が欠席の為、議論を進めることはできないが、先日事務局内で、この推進会議で何をやるのか話し合ったが結論が出ず、もう少し中身を整理した上で、再度話し合うことになったことが報告された。

議論の結果、前回の執行委員会で事務局と情報委員会がこの推進会議の草案を出すことになっていたが、情報委員会がこの推進会議で何をするか考えることは無理があるので、新たに他のメンバーにも参加してもらいワーキンググループを作り議論することになった。

#### 議案 4 . 「翻訳担当者・広報担当者の雇用」

コミュニケーション推進会議とは別に情報委員会の活動をプラン通りに実行する必要があると、末木次長は機能性の担当もすることとなる事から、末木次長をサポートしてもらうために会員の OB の方に週 1 回ぐらい情報委員会に参加してもらいたいとの提案があった。

それに対して、お願いする方の業務の範囲を明確にする必要があるとの意見が出て磐井氏の参加は承認された。また、翻訳担当者に関しても、4 月からお願いすることが承認された。

#### 議案 5 . Dr. John Doull の件

ILSI 本部より Dr. John Doull を日本に派遣して各社のトップにお会いして Fund Raising を目的とした Research Foundation について説明する機会については、前回の執行委員会で決まった通り、S. Harris に日本の体制が整っていないことを報告したが、本日の委員会で提案することはないので次の執行委員会で相談したいとの報告があった。

#### 議案 6 . Research Foundation への応募

	<p>CHP より Development of Food Intake Survey System in Cambodia と Iron Fortification of Rice in Rural Areas in Vietnam の 2 件を提案したいとの申し出があったが、本部へ今後のスケジュールを確認をし、CHP 以外の部会へも応募の呼びかけをすることになった。</p> <p>次回の執行委員会は 5 月 28 日（水）の 6 時から開催されることになった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
理事会	次回の理事会は 6 月 6 日に開催予定
事務局	特になし